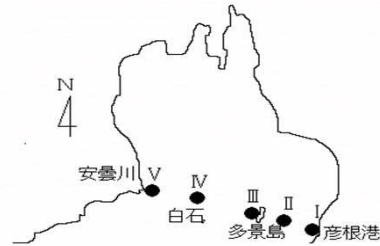


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和2年3月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和2年3月9日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

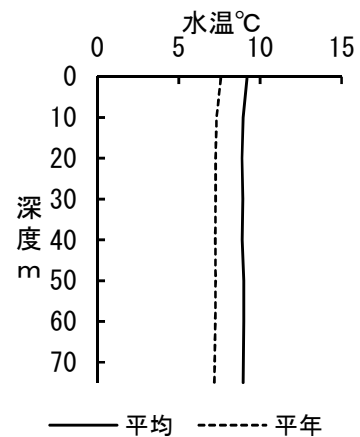
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1981年～2010年(昭和56年～平成22年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2010年～2019年(平成22年～平成31年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 3月平均値 8.3m 平年値 5.8m

2. 湖水温 (°C)

深度(m)	3月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	9.2	7.6	+1.6
10	9.0	7.3	+1.7
20	8.9	7.3	+1.6
30	8.9	7.3	+1.6
40	8.9	7.2	+1.7
50	9.0	7.3	+1.7
60	9.0	7.2	+1.8
75	9.0	7.2	+1.8



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
2月下旬	8.9	6.8	+2.1
3月上旬	9.3	7.3	+2.0
3月中旬	9.9	8.0	+1.9

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	3月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	3.3	4.9	-1.6
10~20	1.7	2.0	-0.3
20~40	1.6	1.6	+0.0
40~75	1.9	1.0	+0.9

(プランクトンネットNXX14使用)

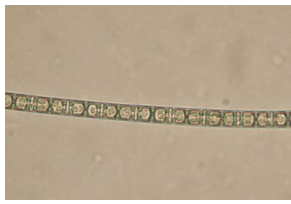
5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

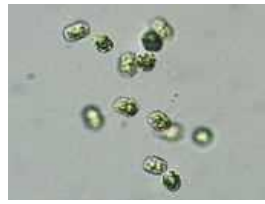
植物プランクトンについては、全ての地点で*Micrasterias hardyi*(ミクラステリアス:緑藻)が量的に最も多く確認されたほか、細胞数では地点2において*Aulacoseira nipponica*(アウラコセイラ:珪藻)が、地点3~5において*Cosmocladium constrictum*(コスモクラジウム:緑藻)が最も多く確認された。動物プランクトンについては、全ての地点で*Eodiaptomus japonicus*(ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類)のものと思われるノープリウス期幼生が最も多く確認された。



Micrasterias hardyi



Aulacoseira nipponica



Cosmocladium constrictum



ノープリウス期幼生

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/l)

深度 (m)	3月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	10.72	(96.1)	11.61	(100.8)	-0.89	(-4.7)
10	10.60	(94.9)	11.49	(98.6)	-0.89	(-3.7)
20	10.51	(93.7)	11.36	(97.4)	-0.85	(-3.7)
30	10.48	(93.4)	11.30	(96.9)	-0.82	(-3.5)
75	10.34	(92.4)	10.85	(92.9)	-0.51	(-0.5)